

2022年6月10日

井関農機株式会社

スタートアップ企業「有機米デザイン株式会社」への出資 ～ 有機農業普及拡大を加速 ～

井関農機株式会社（代表取締役社長：富安司郎、以下「井関農機」）は、有機農業の普及発展に向け水稲用自動抑草ロボット「アイガモロボ」（以下「アイガモロボ」）の開発および販売に関する業務提携を締結している有機米デザイン株式会社（東京都小金井市、代表取締役：山中大介、以下「有機米デザイン」）に出資しました。

記

《背景・目的》

- ・井関グループは、持続可能な社会形成を可能とする環境保全を重要課題のひとつと位置づけ、「お客さまに喜ばれる製品・サービスの提供」を通じ、2050年までにカーボンニュートラルで持続可能な社会の実現を目指し、環境保全型スマート農業に取り組んでいます。
- ・2050年カーボンニュートラル・脱炭素社会の実現に向け、農林水産省の政策方針『みどりの食料システム戦略』が示され、その達成に向け有機農業の取り組み面積割合を25%に拡大する目標が掲げられています。
- ・有機農業普及拡大へは、除草作業の労働時間が慣行栽培と比べおよそ5倍かかることから、大きな課題となっています。
- ・有機米デザインが開発中の田んぼの雑草を抑制するアイガモロボは、田植え後の水田を自律航行して水中を攪拌し泥を巻き上げることで、光を遮り雑草が生えにくい状態を維持しますので、除草作業にかかる労力が従来よりも大幅に低減されます。また、太陽光発電により環境にも優しい仕様です。
- ・井関農機は、この度の出資によって開発元である有機米デザインとのより強固な関係を構築し、社会実装に向け開発を加速化させるとともに、アイガモロボを核とし、当社のスマート農業機械・スマート農業技術を融合させた環境保全型スマート農業を構築し、持続可能な農業の普及拡大とその実現を目指してまいります。
 - ◆「アイガモロボ」に関する当社役割
 - ・販売、アフターサポート
 - ・実証試験、性能評価、開発技術サポート
 - ・アイガモロボを核とするスマート農機と栽培技術を活用した有機農業の普及拡大



《有機米デザインの概要》

会社名：有機米デザイン株式会社

所在地：東京都小金井市中町2丁目24番16号 農工大多摩小金井ベンチャーポート101

代表者：代表取締役 山中 大介

設立年：2019年11月22日

事業内容：アイガモロボの開発、有機栽培技術の開発、有機栽培米の流通

街づくり会社のヤマガタデザイン株式会社（山形県鶴岡市）のグループ会社。農業者の所得向上と有機米マーケットの拡大に取り組むことを目的に、有機米栽培の大きな課題となる除草作業を省力化するアイガモロボの開発、有機米栽培のノウハウの確立に向けた研究開発を行う。

公式WEB：<https://www.ymd1122.com/>

以上

（ご参考）井関農機の環境保全型スマート農業普及拡大へ向けた取り組み（連携協定）

- ・2020年3月 つくばみらい市 先端技術を活用した農業の推進
- ・2021年3月 木更津市 先端技術を活用した農業の推進及び有機農業の推進
- ・2022年1月 新潟市 先端技術を活用した持続可能な農業の推進
- ・2022年2月 島根県と浜田市 持続可能な発展のための有機米の産地づくり
- ・2022年2月 ヤマガタデザイン社 環境保全型農業モデルの構築による街づくり
- ・2022年5月 にかほ市 5者による環境保全型スマート農業の連携推進



5者による環境保全型スマート農業の連携推進締結時の様子

* 左から井関農機株式会社 代表取締役社長 富安 司郎、有機米デザイン株式会社 代表取締役 山中 大介氏、
にかほ市 市長 市川 雄次氏、株式会社権右衛門 代表取締役 須田 貴志氏、TDK株式会社 代表取締役会長 石黒 成直氏

井関グループは 夢ある農業と美しい景観 を支え、持続可能な「食と農と大地」の未来を創造していきます。